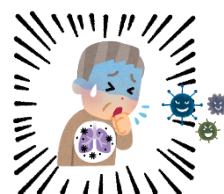


冷却塔のレジオネラ症防止対策

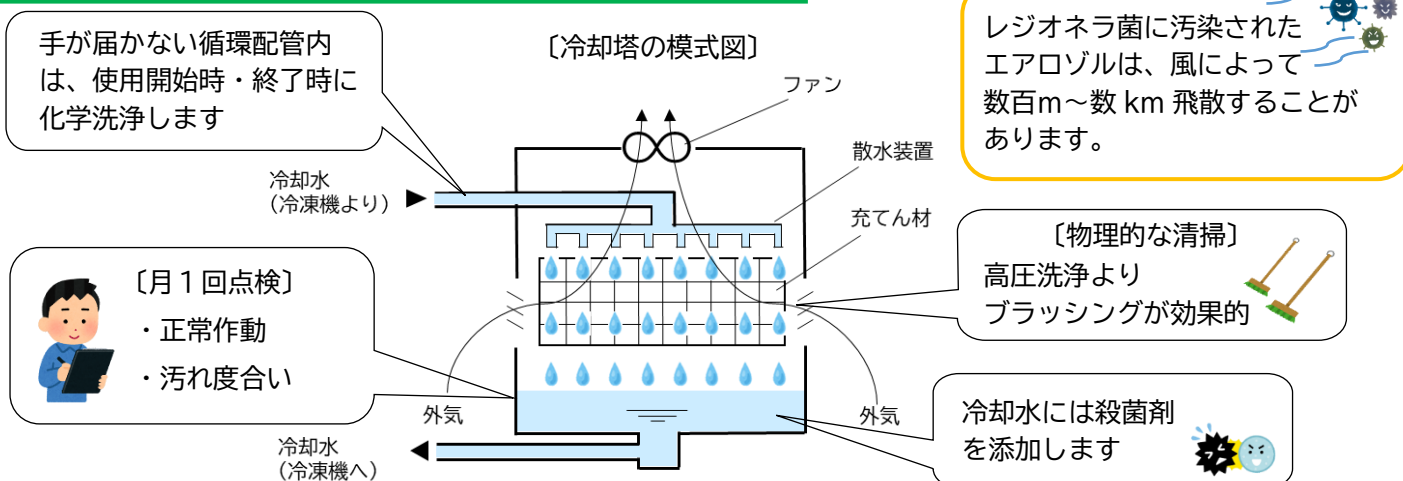


レジオネラ症とは

- レジオネラ症は、レジオネラ属菌に汚染された目にみえないほどの細かな水滴（エアロゾル）を吸い込むことで感染する感染症です。感染すると肺炎症状をおこし、死に至ることがあります。
- レジオネラ属菌は、水が滞留したり循環したりする人工環境において、バイオフィーム（ぬめり）のなかで増殖します。
- 冷却塔は、国内外でレジオネラ症の発生源となっている設備であり、レジオネラ症の発生を防止する対策が必要です。



レジオネラ症の発生防止対策



〔管理方法〕

- ① 冷却水には水道水（水道法第4条の水質基準に適合した水）を使用します。
- ② 冷却水等には、レジオネラ属菌の増殖を抑えるため、殺菌剤を添加します。
- ③ 使用開始時及び使用期間中1月に1回、冷却塔及び冷却水を点検します。
汚れが目立つ場合には、冷却塔の清掃及び換水を実施します（推奨：月1回の定期清掃）。
〔点検項目〕・下部水槽、散水装置、充てん材の汚れやスライムの付着状況
・冷却水の汚れ、藻の発生状況
・薬液注入装置、自動ブロー装置、送風機の作動状況
- ④ 使用開始時・使用終了時には、物理清掃と殺菌剤を用いた化学洗浄を行います。

〔レジオネラ属菌の検査〕

- ・年1回以上、通常運転時に冷却水中のレジオネラ属菌の検査を行いましょう。
- ・検査で100CFU/100mLを超えるレジオネラ属菌が検出されたときには、直ちに菌数を減少させるため、清掃・消毒などの対応をとります。※100CFU/100mLを超えるとレジオネラ属菌「検出」となります。

